

議 事 録

－令和3年度第1回浜松市森林・未来構想会議－

日時：令和3年6月4日（金）午後3時

場所：静岡県浜松総合庁舎1階大会議室

内容：

1 開会

2 あいさつ

3 議題

(1) 浜松市森林環境譲与税活用方針及び活用計画について【資料1】

(2) 令和2年度森林環境譲与税活用事業の実績について【資料2・3】

(3) 令和3年度森林環境譲与税活用事業の計画について【資料2・3】

※資料4は参考として配布し紹介

質疑応答

No	質問・意見	浜松市回答
1	今、地域の事業体と情報交換を行っているところだが、その中で <u>防護柵のパトロールや食害のあった場所への補植の話が強く出ている</u> 。今年度は難しかったようだが、来年度実現できれば、ありがたい話だと思っている。要望が強い事業であるため、是非、実現していただきたい。	令和3年度に予算要求をし、補助金として制度設計を試みたところではあるが、 <u>市財政部局への説明がなかなか困難</u> だったこともあり予算化できなかった。 <u>どのような制度設計ならば説明ができるか、使ってもらえるかももう一度考えたい</u> 。 色々な会議の場で同様の意見をいただいているため、もう一度練り直していきたい。
2	①資料1・5頁 「後年度に大規模な経費を要する事業を計画した際は、その財源確保として、予算の定めるところにより、森林環境基金に必要に応じて積み立てることとする」と記載がある。 <u>財源を見ていると、譲与税が一般財源に変わっている</u> 。そのなかで、成長産業化によって <u>何か計画をしたいときに、どの程度具体的な計画を出せばよいのか</u> 。	①具体的な制度設計がない <u>構想段階でも話をしてもらえたらと思う</u> 。 Q：予算化しないと、譲与税がどんどん一般財源に入ってしまう。それを止めるために計画を実現するには <u>構想だけでは難しいのでは</u> 。 →文書になっているのは必要だと思う。その方が説明しやすい。 Q：見積書のような数字がないと戦えないのでは。 →そこまでいって段階で話をされると事業体として動き出すしなくなるのでは。そこで「市の補助を」と言われても苦しいかと。そのため、構想段階から話をしてもらおうほうがありがたい。

	<p>Q: 例えば<u>大規模工場を3年かけてつくる構想があるとする</u>。譲与税の一般財源への移り方を見ているなかで、<u>構想の文章だけで、その分を確保できるのか</u>。</p> <p>→<u>ストーリー性は必要</u>かと思う。そうすれば説明しやすい。補助要綱を整備する時間も必要なため、ストーリーの始めの段階で、話をもらえるとありがたい。</p> <p>はじめから<u>しっかりした計画でなくても、イメージの段階でお話してもらえたら</u>と思う。また、譲与税の額を気にされている方もいるかもしれないが、譲与税で行うか一般財源で行うかは先の話。<u>「譲与税に限りがあるから」と諦めることはせずに話をしてもらえたら</u>と思う。</p>
<p>②資料2・9頁</p> <p>「天竜こころの森ネットワーク」の活動がコロナ禍の影響で昨年度は1件であったとのことだが、当社では、ホームページを見て申込みをされた方が何件かいる。受け入れ自体は歓迎であるが、せつかく<u>「天竜こころの森ネットワーク」があるのだから、出来れば、情報発信や受け入れを一括で行ってもらいたい</u>。当社は慣れてしまっているので対応できているがプロでない事業体が個々で対応しているのは違和感がある。</p>	<p>②たしかに1件は残念という結果であるし、<u>今後、ネットワークと事業体の連携を進めさせてもらえたら</u>と思う。</p>
<p>③資料2・14頁</p> <p><u>山地災害予防対策事業</u>について。里山という話があったが、<u>非常に使いにくい制度</u>。公園に個人の私有地があり、木が倒れトイレを壊し、150万円請求を受けたという事例もある。せつかく譲与税を使っているのだから、<u>公園内の里山の民地、公園周辺の民地の整備にも使えるよう制度を使いやすくしてもらいたい</u>。</p>	<p>③林業の補助金であるため、森林簿に載っている<u>森林法対象森林を最低限の条件とさせてもらっている</u>。今後も施設、道路、家の裏山で森林法対象森林であれば、森林整備の補助対象とする。1年目の事業であるが、みなさんからは既にたくさん意見をいただいている。<u>意見を踏まえ、2年目以降はより使いやすい制度にカスタマイズできればと考えている</u>。</p>
<p>④「<u>横浜のチェーン店でFSCの箸を使いたい</u>」という方がいる。FSC認証材利用拡大推進事業等で<u>市に対応してもらうことは可能か</u>。</p>	<p>④そういう話があれば、<u>ぜひ相談してもらいたい</u>。</p>

<p>3 ①「浜松市みどりの基本計画」やSDGs等林業振興課以外でFSCの発信を行っているようだ。みどりの基本計画の中でいくつかの方策が記載されているが、具体的には環境林と経済林を分けて管理していこうというゾーニングのようなものがあるのか。</p> <p>また、<u>意向調査について林野庁Q&Aに「少なくとも15年で1周しなさい」という文言があるが、浜松市の状況はどうか。</u></p>	<p>①意向調査については、市域の面積の差もあるため、広大な森林面積を有す本市においては、<u>15年で1周は難しいもの</u>と考えている。<u>もう少し長期的にやらざるをえない</u>という状況である。また、意向調査については、本市では森の力再生事業等と重複しないようにしているため、上手く連携しながら進めていきたい。</p>
<p>②森林環境教育について。私自身、木を使ってくれる人が育ってほしいという想いで始めたもの。今、SDGsの観点からも森林環境教育のあり方が見直されている。<u>森林環境教育を人材育成の手段として活用すべき</u>。遠くから人を呼んで出前講座を行うことももちろん大切だが、市内の子供たちを育てるために、森のことを学ぶ場を少しでも学校の中に作りたいと思っている。<u>市内の学校とタイアップする方法がないか</u>と思う。<u>個人が教育委員会へ掛け合うのはハードルが高いため、市の中で調整を行えないか。</u></p>	<p>②<u>学校とのタイアップについては、教育委員会と話をしながら検討</u>していく。環境教育ではないが、教育委員会との調整については、FSC認証材の机・椅子の導入を行ったことがあり、「重い」「キズがつく」など<u>なかなかハードルが高かった</u>。教育委員会側の想いもあるため、調整に少し時間をいただきたい。</p> <p><u>Q：学校側が使いたいと思う仕組みを作ることが大事。余分に付け足されると感じられると学校側が受け入れてくれないと思う。</u></p>
<p>③天竜材人材育成・担い手確保事業について。以前の会議では、市民の方に森林のことを知ってもらうための支援をということで意見を述べたが、結果としては人材育成・担い手確保に狭まったものとなっている。譲与税について考えた場合、森の大切さを知ってくれている人を増やす観点が必要。担い手の支援はもちろん大切ではあるが、いざ譲与税の徴収が始まる際に、市民の方がこの使い方で納得してもらえるのだろうか。また、<u>自分が活動している団体は所在地が浜松市であり、浜松市内の活動であるが、自身が市外在住であるため、補助を受けられない仕組み</u>となっている。<u>団体所在地と活動所在地を考慮した仕組みとしてほしい。</u></p>	<p>③狭まってしまって申し訳ないが、<u>市内在住の方に限っている部分については、中で検討</u>させてもらう。</p> <p>Q：市の観光CP課の補助金では、市外在住でも使っている。市の中で扱いが変わるのはどうかと考えるため、ぜひ検討してもらいたい。</p>
<p>4 オリパラレガシー創造事業について。<u>デザインコンペの実施が6月頃</u>となっている</p>	<p>過去にデザインコンペを行った実績もあるため、<u>原案を固めている状況</u>。ただ、<u>オリパラ</u></p>

	<p><u>が、その進捗状況を教えてもらいたい。</u></p> <p><u>が実際に開催されるかどうかで、そもそも木材が戻ってくるのかわからないという状況であるため、様子を見守っている。</u>同様の事業を県でも実施予定とのことであるため、県と歩調を合わせていきたい。</p>
<p>5 ①林業の ICT 化について。<u>浜松市が進めているデジタルスマートシティという全体構想の中で、スマート林業推進事業はどのような位置付けか。</u>他の事業と被りがちなところもあると思うが、どのように線引きしているのか教えてもらいたい。</p>	<p>①デジスマの施策を積極的に進めており、今年度行う林道情報のデジタル化を行う。こちらは<u>産業の成長化等のカテゴリーに位置付けられている。</u>林道情報をマッピング化していく事業を進めるが、土木部でも道路情報のマッピングを以前からされている。土木部との重複がないよう調整するのに加え、映像を 360 度車載カメラで撮影し、無駄のないように心がけている。</p> <p>Q：国交省でも強く進めている施策があるが、<u>市単独ではなく、併せて進めているという理解でよいか。</u></p> <p>→土木部のマッピング化はかなり前から行っているが、それが<u>国交省とリンクしているかは申し訳ないがわかりかねる。</u></p> <p>Q：そこはぜひ<u>改めて教えていただきたい。</u></p>
<p>②浜松市が再生可能エネルギーを強く進めているスマートシティ化に向けて、<u>バイオマス等を林業が担う部分大きいと思うが、譲与税を使った施策があるのかどうか教えてもらいたい。</u>かつて力を入れていたバイオマス等今の時点でどういった整理なのか教えていただきたい。</p>	<p>②龍山でペレット工場があったが、上手くいかず工場を撤去した。その他、発電の計画があったりは消えが何度かあったのが実際のところであり、<u>明確な計画は不透明。</u>今生産しているところについては、バイオマスについてはチップの売り先が実際にあるため、何を我々がやるかという、<u>今後、木材生産量を上げていって、プラスアルファ供給できるようにしていくことが重要</u>かと考える。</p> <p>Q：再生可能エネルギーの間口は広がってきているため、ペレット以外についても浜松市ならではの再生可能エネルギーの取組みを考えてほしい。</p> <p>→木質バイオマスがメインではないが、<u>佐久間地内の電力を賄うとするバイオマスの構想がある。</u>市のエネルギー政策課が関わっているが、今のところは採算性を考えて、まずはコーヒーのかすを乾燥させてそれを燃料にする、プラスアルファ木材、ダムの流木というプランで進めている。</p>

<p>③10年ほど前に浜松市が力を入れていた<u>エコハウスのモデルハウスが大平台にあるが、その検証ができていない</u>。先に話に出た環境教育という観点でも、小中学校への教育ももちろん重要だが、これからの担い手として活躍する高校生・大学生・専門学校生に<u>住宅への木材利用がどのような効果があるのか伝える機会として活用すべきと思う</u>。</p>	<p>③市環境部ではほぼ全額国補助を受け当時の省エネ推進のモデルとして出来上がったもの。その後の<u>管理運営は分からない</u>。 既に閉まっているのではなかったか。 Q: 温暖化防止活動推進センターが維持管理をしている状態。いくつかの都道府県が当時エコハウスに取り組みされたなかで、今でもその形を維持しているのが、山形と浜松くらいしかないらしい。だからこそ、今、検証できる価値がある。<u>木材をふんだんに使った素晴らしいものであるため、その性能を検証すること木材活用にとっても有効かと思われる</u>。 →まずは環境政策課に状況を確認してみる。</p>
<p>6 天竜材ぬくもり空間創出事業について。<u>施主からよく「節がないもの」と要望を受け</u>。今朝も新川モールの材料として8 m³ほど依頼がきたが、「節なし」の条件がついている。<u>もう少し、節があるものを使ってもらえるような仕組みにしてみたい</u>。</p>	<p><u>色々なものを使える許容性が必要</u>。実際、天竜区役所は一部節ありを使っているし、「こういうもの見せ方もある」と知ってもらうことも環境教育に繋がっていくのでは。 市の発注する側が山の状況を知らないことも考えられる。節なしが当たり前と思っている人もいるかもしれない。<u>市の中での教育も含めて検討していきたい</u>。 <u>FSC・CLT 利活用推進協議会の設計部門を活用し、山へ来て、木を知っていただくということも有効か</u>と考える。</p>
<p>7 スマート林業推進事業について、<u>林道管理システムの情報を外部へ公表しないのか</u>。また、国有林の林道情報も提供できるため、ぜひ活用していただければと思う。</p>	<p>今年度実施予定のものは、<u>あくまでも内部用として活用するもの</u>。インターネットに載せて外部向けとして公表するところまでは<u>現在考えていない</u>。</p>
<p>8 住居る事業について、<u>市内 COC 認証取得工務店の数はどの程度か</u>。また、今年度の申請見込み数は。</p>	<p><u>市内 COC 認証取得者は、浜松市ホームページですべて公表しており、そのなかで工務店は30社ほど</u>であったはず。その30社が加算条件を満たす。見込み数については、昨年度の131件と同数程度と見込んでいる。FSCに特化はしたものの、供給体制については整備されているため、申請数の減少はないかと思われる。</p>
<p>9 <u>林道維持補修事業が、なぜ一般財源ではなく、譲与税を活用するものなのか</u>。</p>	<p><u>基盤整備が必要という意見がかなりあった</u>。その一環として維持補修に譲与税を上手く使って対応していくという意図である。 きっかけは、令和元年度の林道陥没による<u>緊急な工事が必要になったこと</u>。緊急的な工事</p>

	で一般財源をなかなか充てられず後回しになることはまずかったため、 <u>臨時的な事業として充てていった。</u>
--	--

<参考紹介>

- ◆天竜森林管理署 【資料5・6】
- ◆静岡県西部農林事務所天竜農林局 【資料7】

(4) 意見交換

- 先程も多くの意見を出していただいたが、会議の内容でなくても、譲与税の活用方法についてであるとか、最近のウッドショックの関係であるとか、今後の本市の森林・林業政策に繋がるようなご意見があれば述べていただきたい。

- 情報提供が2点と提案が1点。

情報提供の1点目は、岩波新書から「地域衰退」という本が1月に出版されており、著書は宮崎雅人さんという方で埼玉大学の財政論の専門家。日本全国の税金を使いながら地域が衰退していく、それはどういう理由かの分析がわかりやすく書かれている。平成の大合併が効果的であったのかとか、かつてあったが、1億円をばらまいたものが上手くいかなかったのはなぜなのかといったことが書かれている。結論からいくと「コンパクトにしていくことが非常に大事」で、「東京と地方」という考え方をやめるべき。コンパクトにしていくなかで農業や林業のことも書かれている。譲与税について、どういう仕組みでどうなっていくのか、その管理を大きなところに任せるとしくじるよということも予想している。実は自伐林家の存在が非常に重要で、そういう小さなところをどうしていくか考えなければならないと書かれており、非常にいい本である。浜松市の職員は読んでおくほうがいいと思う。

情報提供の2点目は、NHKの朝ドラで「おかえりモネ」をやっている。林業地と気仙沼の海が繋がっているという、まさしく森と海が繋がっておりそこに向き合う主人公という話で林業のいいことを伝えている。どうやら林野庁が乗っかっており、「おかえりモネ」で放映された内容について林野庁なりに解説しているサイトがある。

提案については、先に節の話があったが、どんどん加工数が多くなると手間やコストがかかる。なるべく加工数を減らして利用できないかと。全くの思い付きではあるが、建築確認申請がいらぬ10㎡以内の範囲で、小屋や東屋のようなものを設計事務所や学生などにコンペ形式で造らせてみてはどうか。1棟10万円だとしても50棟建っても500万円。そういうものを畑や公園に造る。材料は使い道に悩むようなものを上手く使う。もしそれがいいなと思ってくれる人がいれば商業展開に繋がる。天竜の「天」と10㎡以内の「10 (ten)」を絡めて「天10プロジェクト」という名称で思いついた。「天10プロジェクト」を市内のあちこちに点々と広げていく。写真を撮って面白ければそのままパンフレットにしたりホームページに載せたりすると、「商品にできない木もこういう使い方ができる」という広がりも期待できるのでは。オリパラのデザインコンペが具体的に動き出していないのであれば「天10プロジェクト」の前倒しのようなものを行っても面白い。

- 昨年の長雨やコロナの影響で、丸太が少なくなっている。ここへきて本当に大変な状況である。丸太が少ない状況であるにも関わらず、今後、ウッドショックにより全国へ天竜材が

流れてしまうことを我々も心配している。

- 長期的な話とは別の話として、短期的に困っていらっしやることに対して行政としてもなかなか案がないと思っているところ。みなさんの中でいい案があれば言っていただければと思う。
- やはり、地元の材を地元の中でまわしていく仕組みづくりが大切と考えるが、各事業体の意見も聞いてみたい。浜松の材を浜松の中で使っていく、そのなかで新たな動きができればそれを外部に向かって発信していくことが有効かと思う。
- 森林組合さんとしてはいかがか。
- 非常に難しい話…。昨年の長雨の影響がずっと尾を引いている。決してサボっているわけではなく、事業を止めているわけでもなく、それでもこういう状況になっている。製材さんも苦しんでいらっしやる場所かと思うが、私のイメージとしては、天竜材は今は伐るべき時期ではない（伐り旬ではない）。これまでの素晴らしい天竜材を作ってきたのは、8・9月以降から伐り出して11月頃から製材にしていく流れがあったから。問題解決にはなっていないが、それが「天竜材はよいもの」とされている理由かと思う。
- 先程の机や椅子の話は知らなかったため残念ではあるが、学校に取り入れやすいものは何だろうと調べることが大切。個人的には教材を作りたいと考えているが、学校の先生から「こういうことを助けてほしい」という意見を具体的に聞いて、できることは何か考えていきたい。あとは調べ学習も有効かと思う。県で冊子やホームページを以前作っていたが、いつの間にかなくなっていた。そういったコンテンツは調べ学習のために必要。
- 先日、浜松をもっと知りたいという若者が集まった時に、キーワードとして「天竜杉を知りたい」という話が出たらしい。たまたま集まる場の近くにいた関係で「天竜杉について話をしてくれないか」と頼まれて、プロではないが一通り話をした。専門外の方でも天竜材について気にされている方が多く、そこにちゃんとした「間に入る人」がいないと感じている。例えば石野さんに話をしてもらった場合、非常にいい話は聞けるが、専門的についていけない方も出てくるかもしれない。プロと専門外のちょうど間の人たちがいるとよい。天竜材を触る場所がないのも課題。気にしている方もいるため、コミュニケーションの場を作ることが有効。また、新川モールの話も出ていたが、浜松市の職員に徹底的に天竜材教育したほうがよいと思う。課を外れるとFSCを全然知らない人が多い。色んな課で印刷発注を受けることがあるが、仕様書に再生紙の指定はあってもFSCの記載がない。職員のみ含めて、山とは関わりのない人たちのコミュニケーションの場を作ることと考えられたらと思う。
- 私自身山主であるため、先程の意見は理解できるが、製材の立場でいえば、せつかく使ってくれる方がいるのに供給できないとなると、ダメな烙印を押されてしまうことになる。浜松市でも公共建築の方針をせつかく出したところだが、FSCで依頼が来ても「材がないためできない」となるのは浜松市としても困るだろう。浜松のFSCを壊しかねない状況にあるということを認識していただきたい。市内の木はない、しかし我々はFSC認証取得者であるから、市外の材は買えない。このサンドバック状態に陥っている。それくらい危険な状況であることを理解してもらいたい。
- まだまだお話足りないかと思うが、時間も迫ったため、本日は以上とさせていただきます。また意見があれば、電話でもメールでも結構なため、林業振興課まで連絡願いたい。次回会議では、本日いただいた意見・提案をまとめて提示し、さらに意見をいただければと思う。

4 報告、連絡事項

今回は、令和4年度予算要求前の8月頃開催予定。みなさんの所属の会議でも呼んでいただければ、各分野の集まりであれば、より深掘りできるかと思う。

意見等をまとめる時間が必要であるため、さらに意見があれば7月16日（金）までに提出・御連絡いただきたい。

5 閉会